

# SAP S/4HANA への 変革 — IBM の洞察



**IBM Services**



進化する顧客ニーズに対応し、ビジネス成長を促進しながら、急速な変化に機敏に対処するために、あらゆる企業がデジタル変革の旅に意欲的に乗り出しています。

デジタル・エコノミーのメリットを十分に享受するには、2つのアプローチが必要です。企業はビジネス・プロセスを飛躍的に簡素化する必要があると同時に、専門知識を駆使して顧客との関係をより強めて深化させなければなりません。

これを達成するために、多くの企業が SAP の高度な Enterprise Resource Planning (ERP) ソリューションを活用してきました。SAP が前世代の ERP システムを置換する次世代のインテリジェント ERP として設計した SAP S/4HANA により、企業はデジタル・リインベンションの時代をより積極的に受け入れられるようになりました。

本書は、SAP S/4HANA の採用を考えている企業に、業種や導入の進捗状況にかかわらず、以下の重要な洞察を提供します。

「どこから始めるにしても、企業はまずビジネス・ニーズを明確にする必要があります。その後で、混乱を最小限に抑えて目標を達成するための適切な戦略とロードマップを選択できます」

---

Keith Costello (IBM、グローバル VP/GM 兼 SAP GBS リーダー)



企業の準備状況を俯瞰するスナップショット



最適な形で進めるための IBM の知見



IT プロフェッショナルが信頼性の高いビジネス・ケースを構築するために探求する領域



IBM が提供する価値

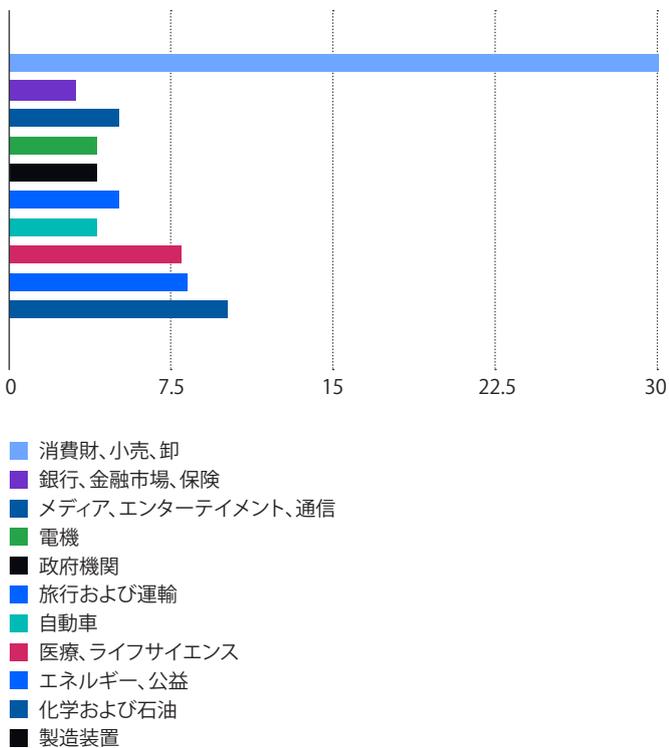
## SAP S/4HANAの導入状況

世界中の数千もの企業が、デジタル変革の旅を加速させるために、いつ、どのような方法で SAP S/4HANA を採用すべきかを真剣に検討しています。

しかし、SAP S/4HANA への移行は、大きな事業になりかねません。この変化に関連するリスクの一部を軽減し、企業に明確な道筋を示すために、IBM は、お客様が IBM の HANA Impact Assessment を用いてアセスメントを実施できるようにしました。

これまでに、200 社を超える企業が IBM の HANA Impact Assessment を利用して、自社のデジタル変革を加速しています。

これらの企業は、さまざまな業種にわたっています。



SAP S/4HANA に移行する動機は、企業ごとに大きく異なります。しかし、どの企業も、業務を推進する独創的で新しい方法を見つけ、企業の成長と生産性を加速させるという信念やニーズは一致しています。

つまり、これらの企業は、リアルタイムのビジネス・データへのアクセスを可能にし、意思決定や顧客エンゲージメント、運用の簡素化を行う方法を根本的に変えるために、基幹システム (少なくともその一部) を刷新しようとしています。

また、SAP のお客様は、次に示す 4 つの準備状況に分類できることがわかりました。

- **ビジネス変革:** このカテゴリーの企業は、幅広いビジネス変革プロジェクトに乗り出しています。
- **ビジネス・ケースの確立を検討中:** SAP S/4HANA への移行の必要性を理解しているものの、まだビジネス・ケースの構築にとどまっている企業です。
- **ロードマップの定義を検討中:** SAP S/4HANA のメリットを認識していますが、そこに到達するまでのロードマップを模索している企業です。
- **まだ計画を定義していない:** SAP S/4HANA について検討していない企業です。これらの企業は、市場に浸透するのを待ち、後から導入します。

## SAP S/4HANA の旅を始めた企業の知見

企業が SAP S/4HANA を導入する方法は重要であり、行程を進める上で大きな違いを生み出します。適切な導入戦略を取ることで、コストを大幅に削減するとともに、ビジネス上のメリットを最大限に高めることができます。

企業が最適な形で導入できるように、200 件を超える HANA Impact Assessment に基づいて、いくつかの重要な見解を以下に示します。

### レッスン 1: あらゆる企業に適した HANA Impact Assessment

IBM の HANA Impact Assessment に参加した企業は、技術的アップグレードを行うか、新規で導入するにかかわらず、提供された情報と洞察が役に立つことに気付きました。技術的アップグレードのアプローチを実施した企業は、アセスメントの結果を用いて、移行を慎重に計画するとともに、カスタマイズをなくし、ソリューションを簡素化しました。

一方、新規導入を決めた企業は情報を活用して、再利用可能な ECC の要素や、刷新が必要な領域を特定しました。最終的に、これによって導入が促進され、投資を 50% 削減できました。

## レッスン 2: 技術的な実現可能性は大きな懸念ではない

SAP S/4HANA の新規導入は、広範なデジタル変革の旅を始める上で優れた方法であると、企業は認識しています。しかし、ほとんどの企業は、仮に技術的アップグレードによって SAP S/4HANA に移行することになったとしても、何の問題もなかったであろうという結論に達しました。

アセスメントを完了した 200 社を超える企業のうち、95% 以上が技術的アップグレードを実行できると分かりました。技術的な実現可能性が問題になることはほとんどないという事実を考えると、少なくとも SAP S/4HANA への移行を始めたい企業にとって、移行に向けたビジネス・ケースを構築することは重要です。

## レッスン 3: 思ったほど複雑ではない

平均的なお客様はレガシー SAP ECC システムで約 2,000 のカスタム・プログラムを実行しており、これらのプログラムの 50 パーセント以上が一度も使用されていません。さらに、複製したプログラムの 35 から 45 パーセントが、複製元のプログラムと同一です。これらの不要なプログラムを標準の SAP コンポーネントで置き換えることで、お客様は自社の SAP 環境の複雑さを劇的に解消できます。

## レッスン 4: 標準からベスト・プラクティスへの移行

企業は、自社のビジネス・プロセスのうち 30 から 35 パーセントが、SAP S/4HANA への移行によって影響を受けたことが分かりました。

このことは次の疑問を投げかけます。もし、企業内のビジネス・プロセスをそれだけ多く刷新する必要があるのであれば、なぜ全て標準化された SAP ソリューションを選択しないのでしょうか。一部のお客様にとって明白な答えは、この導入を完全に受け入れて、標準化された SAP ソリューションを採用することです。

そうすることで、このソリューションそのもののメリットを得られます。つまり、標準化された SAP ソリューションは、よりシンプルであり、よりコスト効率の高い管理が可能で、今後の SAP S/4HANA リリースへのアップグレードも容易になります。

しかし、お客様環境での標準化と同様に、広範囲にわたる標準化から業界固有のベスト・プラクティスに焦点を移すと、お客様はシステムをより完全にカスタマイズするためにかかる時間を 20 から 30 パーセント短縮できます。このイノベーションは、IBM の IMPACT ソリューションとして知られています。

IBM の HANA Impact Assessment によって、企業は、SAP S/4HANA への変革で、どのプロセスが変更、削除、または廃止されるのかを特定できます。また、IBM の IMPACT ソリューションを可能な限り最善の方法で活用する方法を知ることができます。

## レッスン 5: SAP ユーザー・エクスペリエンスの向上

前世代のエンタープライズ・アプリケーションのユーザーは、平均的なコンシューマーであれば利用できるはずのコンシューマー・グレードのユーザー・エクスペリエンスを十分に活用できていません。SAP FIORI アプリケーションは、これらのエクスペリエンスを次世代の S/4HANA ユーザーが活用できるように設計されています。

IBM の HANA Impact Assessment を完了した企業は、最新の SAP FIORI アプリケーションがビジネスにもたらす、改善されたユーザー・エクスペリエンスの採用方法を判断して、明確にすることができます。

SAP のお客様は平均して 100 以上のアプリケーションをすぐに利用できます。これらは、現在の SAP ECC の使用に基づいた、お客様のビジネスに関連しています。IBM は、SAP GUI から新しい SAP FIORI インターフェースへのシームレスな移行をサポートする採用の戦略立案をご支援します。

## SAP S/4HANA に向けたビジネス・ケースの構築

企業にとって、SAP S/4HANA への移行は容易な決断ではありません。

IBM の HANA Impact Assessment ツールは、企業がジャーニーを始めることを支援するために設計されているだけでなく、SAP S/4HANA への移行に向けたビジネス・ケースの構築に必要な論点を、事実に基づいて IT リーダーに提供します。

これは重要なことです。成功に導くビジネス・ケースを構築することは、効率化と成長戦略を支援することによって、企業がコストを節約し、収益を向上させるのに役立ちます。

しかし、SAP S/4HANA によってもたらされるメリットを明確にすることは困難です。ビジネス・ワークフローとビジネス・モデルを根本的に考え直すには、人間の洞察と創造力が不可欠です。これらのメリットは SAP S/4HANA を導入したことによる成果ですが、その上に構築される他の機能の成果でもあります。

この理由により、IBM の Impact Assessment は、人間の知能と IBM が提供する専門知識を補完または連携して機能するツールとして設計されました。

企業にとって、このインテリジェンス、および IBM の業界に対する深い専門知識は、企業が戦略を選択し、各企業固有のニーズに関連するできるだけ優れた実行計画を立案するのに役立ちます。

SAP S/4HANA を導入するのに、「正しい方法」は 1 つではありません。IBM はこの重要な洞察に基づいて行動し、さまざまな道筋がある柔軟なアプローチを構築しました。

## IBM: SAP S/4HANA に移行する企業を支援

多くの企業が、世界中にいる IBM のプロフェッショナルやコンサルタントが提供する、業界とテクノロジーに関する深い専門知識を信頼しています。医療、金融サービス、小売などさまざまな業種で活躍する IBM の専門家は、企業が規模に応じて変革し、よりスマートになるための支援をします。

### 深い業界知識と SAP S/4HANA の豊富な経験

SAP に関していえば、IBM は変革に関する重要な戦略的パートナーであるとともに、重要な役割を担っています。IBM には数千件にも及ぶ SAP S/4HANA 導入の豊富な経験があるため、オンプレミスやクラウド、ハイブリッドなどの各種導入オプションを提供して、さまざまなお客様のご要望に応じてサポートできます。

これは、IBM の深い業界知識と、企業の IT 環境の内部構造を理解していることと結び付いています。

### ビジネス変革の推進に関する実績

高度な研鑽を積んだ従業員が世界中の SAP プロジェクトをサポートしている IBM には、企業が SAP S/4HANA への移行を加速するために必要な実績と業界の専門知識が蓄積されています。

このパートナーシップに基づき、IBM と SAP、業界向けの「IBM's IMPACT」と呼ばれる新しいオファリング群を発表しました。これらのオファリングは丸となって IBM と SAP の既存のベスト・プラクティスとサービスを強化し、SAP S/4HANA の採用を加速させます。

これらの独自の強みを活かし、IBM は、さまざまな業種にわたる企業の SAP S/4HANA への移行を支援し、100 件を超える SAP S/4HANA 導入の成功事例を達成した最初の SAP システム・インテグレーターとなりました。

### エンドツーエンドの変革パートナー

IBM は、企業のビジネス・モデルに大きな影響を与える大規模で複雑なプログラムのオーケストレーションにの経験が豊富です。

戦略から実行まで、IBM はロードマップとビジネス・ケースの早期策定を支援するとともに、SAP S/4HANA で運用を変革することによる影響をエンドツーエンドで特定します。

**SAP S/4HANA を超えて: 手の届く範囲に次世代テクノロジーを**  
企業にとって、SAP S/4HANA は次世代テクノロジー構築の基盤ともなるデジタルの中核として機能します。SAP S/4HANA は土台を築くことにより、企業が AI、ブロックチェーン、高度な分析などのテクノロジーを採用しやすいようにしています。

企業がこれらの機会を捕らえられるように、変革パートナーとしての IBM の価値は、SAP S/4HANA をはるかに超えています。世界有数の民間研究機関である IBM Research は、IBM の専門調査部門であり、お客様とその業界のニーズに応じた比類のない幅広い科学的専門知識を提供します。

IBM がもたらす研究能力、革新的なテクノロジー、深い業界知識を組み合わせることで、ビジネス・ケースご提供価値、S/4HANA のメリットを実現するために必要な時間を劇的に変えることができます。

## さあ始めましょう

IBM がお客様の SAP S/4HANA への変革をご支援します。  
<http://ibm.biz/saps4hana> をご覧ください。

日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

IBM のホーム・ページ:  
**ibm.com**

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。その他の製品名やサービス名は、IBM またはその他の企業の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、[ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。

本書の情報は最初の発行日の時点で最新ですが、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能ではありません。本書に掲載されている

情報は現状のまま提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。

本書に含まれるパフォーマンス・データは、特定の動作および環境条件下で得られたものです。実際の結果は、異なる可能性があります。

本書に掲載されている情報は現状のまま提供され、第三者の権利の不侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

© Copyright IBM Corporation 2020